

がん治療学

1 担当教員名

【研究指導教授】 教授 久保昭仁
【科目担当者】

2 教育目標

(1) ねらい

がんの発生机序と病態に関する分子生物学, がんの疫学, 世界と本邦におけるがん対策について理解した上で, 臓器横断的にがんに対する治療についての知識、考え方を修得する。手術療法, 放射線療法, 薬物療法(細胞傷害性化学療法, 分子標的治療, 免疫療法)に加えて, 新規治療開発のための臨床試験, がんゲノム医療, 多職種でのチーム医療についての考え方を修得する。

(2) 学修の到達目標

- ① がんの発生机序と病態について, 分子生物学的知見に基づいた概説ができる
- ② 世界と本邦におけるがん対策の概要について説明できる
- ③ がんに対する薬物療法, その有害事象と対策, 支持療法を適切に実施できる
- ④ 新規治療開発のための臨床試験とがんゲノム医療について説明できる
- ⑤ がん患者に対する全人的医療を理解し, 実践できる

3 授業内容

【講義】	臓器横断的にがんの発生と病態, 診断, 治療, がんゲノム医療, 臨床試験について講義する
【演習】	がん治療学に関する文献等の情報収集, レビューを行う。抄読会, 症例検討会, ゲノム医療エキスパートパネル, キャンサーボード等に参加し, 診断と治療についての実習と討論を行う
【実験研究】	がん治療学, がんゲノム医療に関する臨床研究を行い, その成果を発表する

4 成績評価の方法・基準

がんの分子病態、薬物療法を中心とするがん治療とゲノム医療、臨床試験、およびがん患者に対する全人的医療への理解を重視する。講義への出席、演習への参加と議論、課題レポート、学会および論文での成果発表を踏まえて評価する。

5 教科書・参考図書

新臨床腫瘍学-がん薬物療法専門医のために-改訂第6版 日本臨床腫瘍学会 編 南山堂 2021年

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

講義と演習 100 時間/年

実験研究 100 時間/年

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

- 本課程における講義, 演習, 実験研究を通じて, がん治療の実践と研究の両面において指導的役割を務めることができる実践力を修得する。
- 本課程では, がん治療学に関する情報発信活動(論文および学会発表, 講義, カンファレンス等における議論等)を重視する。これらを行っていくことでがん治療に専門的に携わる医療者として、国際的にも活躍できるコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を修得する。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

- 本課程では双方向の議論を重視する。講義, 演習, 実験研究, それぞれの課程においての質疑・討論を行うことで研究課題に対する理解を深め, 学習内容の充実を図る。
- 試験・レポート等の課題実施, 提出にあたっては, 評価を行い, 評価結果を返却する。結果によってはさらなる議論や討議内容確認のための課題再提出を求める場合がある。

9 履修上の留意点

とくになし

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	久保昭仁	木	16:00~17:00	D棟4階臨床腫瘍センター医局	内線 27154